



だれでも安心して暮らせる地域づくりを！

熊石中学校 認知症サポーター養成講座

10月31日、熊石中学校で総合学習の一環として認知症サポーター養成講座が行われ、生徒や教員ら約20名が認知症について知るとともに、地域で支え合うことの大切さを学びました。はじめに熊石地域包括支援センターの職員から認知症についての講話が行われた後、職員と「熊石介護者と共に歩む会」の会員によるロールプレイが行われ、現実起こった場面を想定して、認知症の方との接し方などについて学びました。生徒からは「認知症の方が近くにいたら優しく相手の気持ちを考え接したい」と話していました。



手づくりの学芸会で、きずな深める！

地域パワー全開！泊川学芸会

12月10日、閉校した旧泊川小学校を会場に「泊川学芸会」が開催され、地域住民など約100人が楽しいひとときを過ごしました。今春の小中学校の統廃合のあと、地域全体を盛り上げようと泊川太鼓の会が中心となって、毎年11月に旧泊川小学校の行事として行われていた学芸会を地域の学芸会として開催しました。はじめに泊川伝統の「泊川豊漁太鼓」がオープニングを飾り、続いて幼児によるソーラン踊りや高校生によるダンス、旧泊川小学校で活動している相沼空手少年団の型披露のほか、町内会有志による踊りやカラオケのど自慢大会などバラエティに富んだ演目が披露されました。



大学の知と芸術を通じた交流の場づくり！

くまいしオータニフェスト

12月2日、地域内外の交流の場づくりを目的に、関内町内会が中心となり、ふれあいサロン活動の拡大版として、札幌大谷大学の協力のもと、「くまいしオータニフェスト」が旧関内小学校で開催され、町内外の来場者約100人が芸術に触れた一日を過ごしました。会場ではフリーマーケット、大学生による熊石地域の現地調査報告会、同大学音楽科黒山映准教授によるピアノ演奏の披露、美術学科島名毅講師による地域とデザインに関する講演会が行われました。



おいしいおそばに なあれ！

浜松小学校そばうち体験教室

12月1日、浜松小学校で、八雲そば研究会会員を講師に毎年恒例のそばうち体験教室が行われました。平成19年からこの教室が始まり、八雲そば研究会のボランティアに支えられ、今年で10年目を迎えました。

そばうち教室では、講師の指導のもと、そば粉に水をまわしたり、こねたりと粉の感触を楽しみながら楽しくそばうちを学びました。最後には、講師がうったそばを、みんなでおいしく食べ、自分のうったそばは家に持ち帰り、上達具合を確かめながら家族と共に楽しみました。

